石巻特進スクール発行の楽しく読んで学力アップと入試に強くなるお得な情報誌

第161号　発行日　平成22年5月7日

合格通信

今月の名言

新しい創造というのは知性によって為されるのではなく、内なる必要から本能が為す。
創造的な精神は愛することに取り組むものだ。

― ｶｰﾙ・ﾕﾝｸﾞ ―
(ｽｲｽ心理学者)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

オールナイト映画②小林正樹篇

前回の「黒沢明特集」より２週間前の1983年３月19日池袋「文芸坐地下」(今はありません)で観た「小林正樹特集」が僕のオールナイトデビューでした。一人で行くのは不安だったので、小樽出身のＴ君を強引に誘って観に行きました。

そのときの作品はすべて長尺ものだったのでオールナイトといえどもめずらしく３本立てで「怪談」「切腹」「いのちぼうにふろう」という作品で組まれていました。「怪談」はﾗﾌｶﾃﾞｨｵ・ﾊｰﾝの古典的作品なので内容は知っていましたが、他の２作は初でそもそも小林正樹監督自体知識が無かったのでさほど期待もしていなかったのですが、３作品とも黒沢作品に負けず劣らずの名作でした。なかでも「切腹」は強烈なインパクトがありました。

切　腹

いのちぼうにふろう

江戸時代後期、貧窮する武士がこれ以上武士として生きていくには恥辱であると名家の庭先で切腹を所望し、いくばくかの金銭を与えられ厄介払いされる、この金品を目的とする詐取行為が流行していた。これを苦々しく思っていた井伊家はあるとき同様の手口で訪れた武士を本当に切腹させてしまう。しかもこの武士の脇差は竹で作った刀「竹光」。これで切腹をさせてしまうあたりの残酷さはホラーに近い。そして遺体を運ばれた武士の父がことの一部始終を聞き、その無残さに復讐を決意する。この後の展開がさらに面白いのです。しかも俳優は仲代達矢、丹波哲郎、三国連太郎・・・最高の役者がそろっています。仲代はこれが自身の出演した作品の中でベストワンと語っています。

「いのちぼうにふろう」は山本周五郎の「深川安楽亭」が原作。これが始まりスクリーンにタイトルがクレジットされると後ろの客席から拍手が・・・「名作か？」いやがおうにも期待させられました。小林作品にはほとんど仲代が出演していてこれにも出ているのですが、最後まで仲代に気づかず、映画館から出てＴ君に「最後の映画に仲代でてたか？」と聞くと「おーい、あの主役仲代だろ」といわれてしまいました。仲代の劇中の役になりきった迫真の演技に参りました。